



羅針盤

2014年度 第10号
都立豊多摩高等学校
進路図書部
2014.10.8



記念祭、体育祭は無事に終わりましたが、大学の学園祭はこれから本番のところが多いです。1、2年生は時間があれば足を運んでみてはいかがでしょうか。ただのお祭りではなく、オープンキャンパスを併催している大学もありますし、模擬授業や講演会などで大学の雰囲気を知ることが将来の進路選択に役に立つかと思えます。大学の施設・設備を知る上でも貴重な機会です。学食で食事することができれば、大学生の生活が垣間見えるかもしれませんね。いくつか情報を掲載しますので、参考にしてみてください。〈 〉内の文章は各大学のHPからの転載です。



・東京工業大学

10月11日(土)・12日(日) 大岡山キャンパス

〈公開講義は大学の先生方に一般の方向けに講演を行なってもらう企画です。本学の教授陣が最先端の研究をみなさんに紹介いたします。本年度のプログラムは以下の通りです。

「がんより怖い血管の病気—新材料と治療革命」細田秀樹 教授 (精密工学研究所)

「太陽の光で電気を作る」山田明 教授 (電子物理工学専攻)

「大江戸商い模様」山室恭子 教授 (社会工学専攻)

本企画は無料となっております。基本的に講義中も入退場は自由です。予約は不要です。〉

・青山学院大学

10月11日(土)・12日(日) 相模原キャンパス

〈相模原祭は相模原市の地域との繋がりが強く、地元から多くの子どもたちやお年寄りも来場されるので、幅広い年代の方に楽しんでいただける企画が盛りだくさんです。各企画が活気に満ちていながらもゆったりとした雰囲気の中で行われています。そして一番の特徴として挙げられるのが「環境とリンクした大学祭」であるということです。〉

・慶應義塾大学

10月11日(土)・12日(日) 矢上キャンパス

〈矢上キャンパスは理工学部生が在学するキャンパスであるため、数ある慶應義塾大学の学園祭の中でも、研究室展示や科学教室といった、理系ならではの企画が開催されることが特徴的です。他にも、学園祭の定番であるミス・ミスターコンテストの理工学部バージョンとも言える『理系美人』を始め毎年斬新で先進的な華々しい企画が数多く開催されています。〉

・法政大学

10月18日(土)・19日(日) 多摩キャンパス

〈「学生相談コーナー」→多摩キャン生が自分たちの経験をもとに、受験についてや大学生活について説明をします！

「講演会(体験授業)」→今年度は、現代社会心理学の分野やメディア研究の第一人者である、社会学部教授の稲増龍夫先生に講演会をしていただきます。大学の授業を体験出来るチャンスです！

「キャンパスツアー」→多摩キャン生とともにキャンパスを回ることで、自然豊かな多摩キャンパスについて知ることができます！〉



皆さん将来の自分の職業については少しずつイメージができてきていますか？社会の出来事にも関心を持っていますか？最近政府も「女性の活躍推進」をうたっていますが、日本ではまだまだ男女が社会的に平等になっていないのが実情です。例えば厚生労働省の「平成 24 年賃金構造基本統計調査」によれば、女性の1ヶ月あたりの賃金は、男性を 100 としたときに、アメリカでは 80.9、イギリスは 81.3、ドイツは 80.3 であるのに対し、日本では 70.9 にとどまっています。男女格差が日本よりも少ないように思える欧米でも様々な場面で女性が不利を感じる場合があります。先月、ニューヨークの国連本部で、映画「ハリー・ポッター」のハーマイオニー役で有名になった女優エマ・ワトソンが、男女格差問題に関する印象的なスピーチをしたことが報道されました。一部だけの抜粋になりますが紹介しますので、英語の勉強も兼ねて読んでみて下さい。若い皆さんもこれからの社会のあり方を自らの事として考えていきましょう。

Emma Watson: “Gender equality is your issue too”

United Nations Headquarters, New York, 20 September 2014

(途中から) I am from Britain and think it is right that as a woman I am paid the same as my male counterparts. I think it is right that I should be able to make decisions about my own body. I think it is right that women be involved on my behalf in the policies and decision-making of my country. I think it is right that socially I am afforded the same respect as men.



But sadly I can say that there is no one country in the world where all women can expect to receive these rights. No country in the world can yet say they have achieved gender equality. These rights I consider to be human rights but I am one of the lucky ones. My life is a sheer privilege because my parents didn't love me less because I was born a daughter. My school did not limit me because I was a girl. My mentors didn't assume I would go less far because I might give birth to a child one day. These influencers were the gender equality ambassadors that made me who I am today. They may not know it, but they are the inadvertent feminists who are changing the world today. And we need more of those. (以下略)

(以下の和訳は、“The Huffington Post”2014年09月26日号によるものです。)

私はイギリス出身で、自分が男性の同業者と同じ額を支払われることは女性として正しいと思っています。私は自分の体について、自分が決められることは正しいと思います。私は、私の代わりに女性たちが我が国の政策と決議に参加することは正しいと思います。私は、社会的に男性と同じくらい尊重されることは正しいと思います。

しかし残念ながら、こうした恩恵を全ての女性が受けられる国は一つもないと断言できます。世界中のどの国も、未だに男女平等を確立したと言えるところはありません。こうした権利こそが人権なのだとは自分は思います。私は恵まれた人間です。私の人生は本当に恵まれています。それは両親が私が娘だからといって愛情をそぐようなことをしなかったからです。私の学校は、私が女子だからといって何かを制限することはありませんでした。私を指導した人たちは、私がいつか子供を生むだろうからといって可能性を過小評価することはありませんでした。私に影響を与えてくれたこうした人たち一人ひとりが、今日の私を作り上げたのであり、男女平等の親善大使たちなのです。彼らはこの事実を知らないかもしれませんが。しかし彼らこそが隠れたフェミニストなのです。そして私たちはもっとそういう人たちが必要なのです。

以上